



酒造好適米「吟のいろは」通信

令和4年7月発行

宮城県美里農業改良普及センター

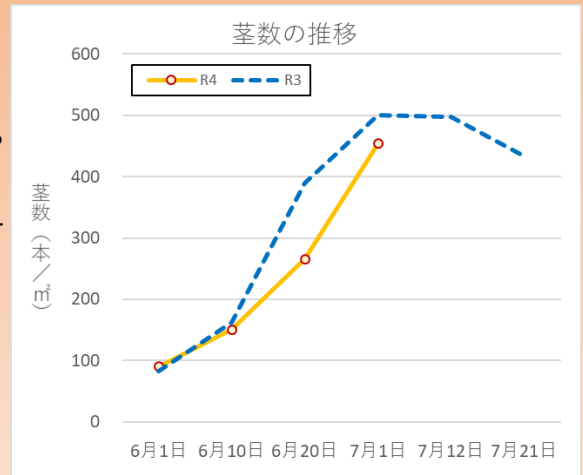


7月の「吟のいろは」

松山町酒米研究会の生産者が栽培している「吟のいろは」は、6月初めの低温の影響で生育が停滞しましたが、その後の天候の回復に伴ってぐんぐん成長しています【図】。

今年はこれまでで最も短い14日間の梅雨となり、6月初めの寒さがうそのように、高温多照の傾向になっています。

生育は例年より早まっているとの予想で、穂が出る「出穂期（しゅっすいき）」も早まりそうです。



図：「吟のいろは」茎数の推移
(松山地域調査ほ場の平均値)



1回目現地検討会開催！

「吟のいろは」の栽培技術の向上を図ろうと、現地検討会が6月28日（火）に開催されました。気温の高い中、生産者、関係機関の担当者等、多数参加し、関心の高さがうかがわれました。

普及センターからは生育の経過を、古川農業試験場から今後の管理についてそれぞれ説明を行いました。求められる酒米の品質を実現するために、目標穂数に合わせて茎数を確保すること、生育量を把握した上で適期・適量の追肥を行うことなどについて確認しました。

季節予報（7月7日 仙台管区气象台発表）によると、今後も平年より気温が高い傾向が続くようです。高温傾向の年ですが、水管理に気を配り、良質な酒米生産に向けて生産者と共に励んでいきます！

